

## 「保久良神社参道にて」

保久良支部 大谷 祐子

5月半ば、木々の緑の美しい季節、毎日登山の道を、マスクをして黙々と歩きます。

元旦、初詣の人々の喧騒の横で、保久良登山会新年互礼会の乾杯をした時には、思いもよらなかった事態になってしまいました。



保久良神社境内にある磐座・立岩

あっという間に世界中に蔓延した COVID-19 に感染症の恐ろしさを思いしらされました。この先、治療薬ができるまで、基本的には人との関りを最小限にするという生活様式にも慣れていかなくはなりません。

毎日登山の道は、休校やテレワークで人が増えていたとはいえ、自然は去年と同じように移ろっていきます。保久良神社鳥居前の茅葺の海の広がりも生駒山まで見渡す景色も変わりません。



保久良支部署名所

大好きな芝居も3月から公演中止になり、最後に歌舞伎を観たのが2月初旬ですから、3か月劇場には行っていません。この先、人との距離をおくという対策が劇場でどのように取られる

のか、想像もつきません。開港された神戸に映画が入って来た時、映画はキネマトスコープという装置で、一人で楽しむ娯楽でしたが、映画館で楽しむ文化を経て、今又、モバイルで、個で楽しむところに戻ってきた感もあります。芝の上に座して見物した昔には帰れず、ネット上で無観客劇場中継という事になるのでしょうか。



冬の朝、神社のお祓いの時間に合わせて参道をいくと、東の空が白んで、仮名手本忠臣蔵四段目の道行の詞章「東が白む横雲の…」そのままの情景です。

5月14日のお祓いの日、山上から見下ろす茅葺の海をみて、「海上遥かに見渡せば五色彩る宝船…」という乗合船恵方萬歳の一節が浮かびました。今のように、女性が（男性もですが）自由に旅を出来なかった時代、人々は芝居の道行の段で、遠くに思いを馳せました。私も暫くは毎日登山の道で、舞台に思いを寄せていくことになりそうです。

.....